

小田原市教育委員会定例会会議録

1 日時 令和元年（2019年）7月23日（火）午後7時00分～午後9時31分
場所 小田原市役所 7階 大会議室

2 出席者氏名

1番委員 栢 沼 行 雄（教育長）
2番委員 和 田 重 宏（教育長職務代理者）
3番委員 萩 原 美由紀
4番委員 吉 田 眞 理
5番委員 森 本 浩 司

3 説明員等氏名

理事・教育部長	内 田 里 美
文化部長	安 藤 圭 太
教育部副部長	友 部 誠 人
文化部副部長	遠 藤 佳 子
文化部副部長	石 川 幸 彦
文化部管理監	大 島 慎 一
教育総務課長	飯 田 義 一
学校安全課長	鈴 木 一 彰
教育指導課長	石 井 美佐子
生涯学習課長	樋 口 肇
文化財課長	高 橋 万 明
図書館長	古 矢 智 子
教育指導課教職員担当課長	鈴 木 一 彦
教育指導課指導・相談担当課長	大須賀 剛
教育指導課指導主事	楠 喜久子
教育指導課指導主事	橋 本 賢 治

(事務局)

教育総務課副課長	府 川 雅 彦
教育総務課主任	小 林 綾 野

4 報告事項

市議会6月定例会の概要について (教育部・文化部)

5 議事日程

日程第1 議案第32号 いじめ防止対策調査会委員の委嘱について (教育総務課)

日程第2 日程第33号 令和2年度使用一般図書（第9条本）採択について
(教育指導課)

6 協議事項

(1) 学期制検討について (教育指導課)

(2) 令和2年度使用教科用図書採択について (教育指導課)

7 議事等の概要

(1) 教育長開会宣言

栢沼教育長…本日の出席者は5人で定足数に達しております。

(2) 6月定例会会議録の承認

(3) 会議録署名委員の決定…和田委員、萩原委員に決定

(4) 報告事項 市議会6月定例会の概要について (教育部・文化部)

理事・教育部長…それでは、私から、報告事項(1)「市議会6月定例会の概要について」報告をさせていただきます。資料1を御覧ください。

1ページは、日程でございます。

6月定例会の会期は、6月5日から6月25日まででございました。

6月10日に議案関連質問の質疑、6月13日に厚生文教常任委員会、6月19日から6月25日まで、一般質問が行われました。

2ページは、厚生文教常任委員会の概要でございます。

1 議題につきましては、教育部及び文化部関連といたしましては、2件審査がございました。まず、議案第60号「令和元年度小田原市一般会計補正予算(所管事項)」につきましては、5月の教育委員会定例会で御説明申し上げました、幼児教育の無償化に伴う公立幼稚園保育料の減額、地区公民館建設費補助金及び小田原城天神山回遊路整備等「歴史的風致維持向上計画」に位置付けられた事業にかかる予算を補正するもので、常任委員会での審査後、委員全員の賛成で「可決すべきもの」との決定を受け、6月25日の本会議において可決されました。

次に、議案第67号「小田原文学館条例の一部を改正する条例」につきましては、5月の教育委員会御説明申し上げました、減額規定を追加する改正で、常任委員会での審査後、委員全員の賛成で「可決すべきもの」との決定を受け、6月25日の本会議において可決されました。

また、陳情第2号「ランダムな下校時刻の改善に関する陳情書」及び陳情第3号「居場所作りの促進に関する陳情書」について、委員会で審査されました。これらの陳情につきましては、「賛成少数」で「不採択とすべきもの」とされ、6月25日の本会議で不採択となりました。なお、3ページから7ページまでに陳情書の写しを添付しております。

続きまして、8ページを御覧ください。

一般質問では、4番 小谷英次郎議員ほか10名から教育部関連の質問がございましたが、主なものを報告させていただきます。

10ページを御覧ください。

はじめに、小谷議員からは「教職員の多忙化解消に向けた本市の総合的な取組について」などの質問があり、「教育委員会主催の研修・出張の精選や効率化

を図るとともに、校務支援システムの機能向上や、夏の学校閉庁日の導入、多様な児童生徒への支援のため教員を補助する市費臨時職員の配置等に取り組んできた」旨、答弁いたしました。

12 ページを御覧ください。

次に、清水議員からは「学校におけるスクール・サポート・スタッフの配置について」などの質問があり、「教員のサポートを担当するスタッフを配置することは、教員の事務作業の負担軽減につながることから、学校における働き方改革を進めていくために、有効であると考えます。県に配置を要望していくとともに、市独自で配置することも視野に入れ、他の事業との優先順位を踏まえながら検討してまいりたい。」旨、答弁いたしました。

13 ページを御覧ください。

次に、鈴木敦子議員からは「放課後子ども教室の全校実施における課題について」などの質問があり、「必要なスタッフ数が大幅に増え、その確保が課題となっている。特に学習面の指導を担う学習アドバイザー、活動内容の調整を担うコーディネーターの確保が課題となっている。また、体験活動を増やすなど、内容の充実を図っていくため、各地域との連携を進めていくことも、今後の課題であると考えている。」旨、答弁いたしました。

次に、木村議員からは「通学路の見直しや危険箇所等のチェックについて」質問があり、「毎年、春先にPTAや地域自治会、警察などとともに通学路の合同点検を実施している。合同点検の結果は、合同点検参加者などで協議を行い、対策が必要な箇所については、教育委員会を通じて、道路管理者や警察などに改善を依頼している。」旨、答弁いたしました。

以上で、教育部に係る「市議会6月定例会の概要について」の報告を終わらせていただきます。

文化部長…引き続きまして、私から文化部所管の概要について御報告申し上げます。

資料の14ページを御覧ください。

文化部関連の一般質問といたしまして、鈴木敦子議員、安野裕子議員、岩田泰明議員から質問がございました。

はじめに、鈴木敦子議員から「小田原市立図書館の閉館」について質問がありました。

まず、収集してきた地域資料や蔵書の今後の保存・活用について質問があり、閉館後は、中央図書館として位置付けているかもめ図書館で保存・公開等をしていく方向で検討している旨、答弁しました。また、閉館に伴う記念行事についても質問があり、資料のとおり、記念誌の作成や記念行事を実施する予定である旨、答弁いたしました。

次に、安野議員から「地域活動の拠点としての地区公民館の現状と課題」に関して質問がありました。

地区公民館は、建物の老朽化に伴う外壁や屋根の改修、耐震補強、バリアフリー化にかかる工事費の財源確保が課題となっており、新築、建替え、改修、修繕などに対しては、小田原市地区公民館建設費補助金や小田原市地区公民館修繕費補助金の制度を設け、支援している旨を答弁しました。

次に、岩田議員から「酒匂市民集会施設（旧酒匂町役場）、旧大窪支所（旧大窪村役場）の建物の歴史的文化財としての保存」について、県内における町村合併促進法成立以前の町村役場建物の現存数を把握しているかとの質問に、資料のとおり、全体の現存数については把握していない旨を答弁いたしました。また、両施設について近代行政建築の文化財としての検討は行われたのかという質問があり、ともに老朽化が著しく、引き続き市として利用していくことは難しいとの判断に至ったため、検討は行ってきていない旨を答弁いたしました。

以上で、文化部所管の市議会6月定例会の概要についての報告を終わらせていただきます。

（質疑・意見等なし）

栢沼教育長…以上で、文化部が関連する議題は終了いたしましたので、関係の職員は御退席ください。

（5）日程第1 議案第32号 いじめ防止対策調査会委員の委嘱について（教育総務課）
教育総務課長…それでは、議案第32号「いじめ防止対策調査会委員の委嘱について」御説明いたします。

議案書をおめくりいただき、「小田原市いじめ防止対策調査会委員候補者名簿」を御覧ください。

小田原市いじめ防止対策調査会委員につきましては、小田原市いじめ防止対策調査会規則により任期を2年と定めており、令和元年7月31日をもって任期が満了いたしますことから御提案させていただくものです。

同規則により、調査会の委員は、医師、弁護士、臨床心理士、これらのほか教育委員会が必要と認める者のうちから教育委員会が委嘱することになっております。

候補者名簿にございます5名のうち、横田氏を除く各氏は平成27年8月から、横田氏は平成29年8月から委員に委嘱しておりますが、いずれも本市いじめ防止対策調査会委員として適任と考えられますので、全員再任いたしたく提案するものでございます。

御審議のほど、よろしくお願いいたします。

(質疑・意見等なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決

(6) 日程第2 議案第33号 令和2年度使用一般図書(第9条本)採択について

(教育指導課)

教育指導課長…それでは、私から御説明申し上げます。

特別支援学級においては、通常の学級で使用する教科用図書を使用することが適当でない場合は、附則第9条教科用図書及び特別支援学校用小中学部用教科書目録から、適切な図書を選び、使用することができるようになっております。

学校教育法附則第9条に基づいた一般図書の採択につきましては、毎年採択することができるとなっております、各学校が児童・生徒一人一人の状況に応じて選択した図書を、学校の設置者である所管の教育委員会が、教科書として採択するものでございます。

各校の選択にあたっては、国が調査研究し、文部科学省が作成した「平成32年度用一般図書一覧」、神奈川県が調査研究し作成した「令和2年度使用 神奈川県立特別支援学校採択教科用図書調査研究資料」を参考にし、各児童生徒に応じたものを各担任が選択しております。

委員の皆様にご本日ここで御審議いただく「令和2年度 特別支援学級で使用する教科用図書の採択について(案)」につきましては、各児童生徒用の図書としてナンバー1から214までの214冊を発行者ごとにまとめ、1ページから7ページまでにお示ししてございます。

また、特別支援学校用の教科書から児童生徒に適しているとした図書につきましては、文部科学省が作成した特別支援学校用教科書目録から選択した6冊を、8ページのナンバー215から220までにお示ししてございます。

学校教育法附則第9条に基づいた一般図書、特別支援学校用教科書のいずれも、各学校の特別支援学級の担当者が、それぞれの学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の個性や発達段階、障がいの度合いなどを考慮しまして、「その子にあった最適な教科書は何か」という視点で選択したものの合計220冊となります。

各学校から希望が出された図書につきましては、教育委員会事務局教育指導課にて精査したうえで、この一覧表を作成しております。

以上で説明を終わらせていただきます。

御審議くださいますよう、よろしくお願いいたします。

(質疑)

吉田委員…今までも採択してきたと思いますが、これまでの中で、現場で使ってみて、使いつらいという意見があったり、保護者から意見があったりしたことはありませんか。

教育指導課指導主事…保護者と学校の教員が事前に相談をして、適切な教科用図書を決めており、その時点で適切と判断されているものなので、その後に適切ではなかったといった意見はありません。

吉田委員…それでは、今まで提案されたものは、全て適切だったという理解でよろしいですか。

教育指導課指導主事…適切であったという判断で、こちらに記載しております。

(その他質疑・意見等なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決

(7) 協議事項 (1) 学期制検討について (教育指導課)

指導・相談担当課長…はじめに、本日の資料を確認させていただきます。資料2を御覧ください。右上に「資料2」とあるものを、次第と呼びます。点線枠の四角が2つございます。上の枠は、配布資料Aとして、「「児童生徒の声アンケート」調査について」ということで、以降に添付しておりますA-1からA-6までの合計7枚ございます。下の枠は、配布資料Bとして、4月教育委員会定例会で、学期制検討に関する懇談会まとめの別添5としてお示しした、2学期制を継続する場合と、3学期制に戻す場合の各スケジュールの比較検討資料を再掲しております。

次に、本日の協議の予定について説明します。次第を御覧ください。項目1

(1)「教育委員からの依頼等について事務局からの報告、協議」としてありますが、教育委員の皆様による協議の前に、①として事務局から資料について報告、説明いたします。②として、教育委員の皆様による協議となりますが、本日は特に、①で報告する資料A、「児童生徒の声アンケート」について、御協議いただきたいと思います。その後、項目2「今後の予定」について確認、御提案申し上げます。

(質疑・意見等なし)

指導・相談担当課長…次第の項目1(1)①として、事務局からの報告です。

資料Aを御覧ください。先月の教育委員会定例会での協議等を受け、児童生徒を対象としたアンケート調査を行いました。

小・中学校ともそれぞれ3校、計6校に調査を依頼し、事務局からは対象とする学年を指定するとともに、各校では1学級を抽出して調査を実施しました。資料Aが調査用紙で、片面が小学生用、もう片面が中学生用となっています。中学生用を御覧ください。小学校用との違いですが、「(5) 定期試験について」、「(6) 部活動について」の二つが中学生用には加わっております。

それ以外の質問は同じで、中ほどにありますように、「次の(1)から(7)若しくは(9)について、「こうなってほしい」ことや、あなたが思っていることを感じていることなどを教えてください。」としています。

具体的なアンケート結果については、次のA-1からA-6までのA3判6枚です。各学校・学級ごとに用紙を分けており、このうち、A-1からA-3の3枚が、小学校6年生の3校・3学級のもので、A-4が中学校1年生、A-5が中学校2年生、A-6が中学校3年生となっています。

具体的に、A-1について御説明いたしますので資料を御覧ください。表面が1/4、2/4、裏面が3/4、4/4となっています。

4/4ページを御覧ください。最後に、「n=37」とありますが、6年生1学級37名の結果となっています。

はじめに、項目ごとの回答数を確認いたしますので、1/4ページ目を御覧ください。

質問1「授業について」、何らかの記述式をした児童が16名、「特になし/無回答」の児童が21名です。

質問2「学校行事について」は、「特になし/無回答」が24名、質問3「学校の休みについて」は、「特になし/無回答」が18名、質問4「通知表について」は、「特になし/無回答」が26名、質問5「学校の先生について」は、「特になし/無回答」が22名、質問6「学校の施設について」は、「特になし/無回答」が16名、質問7「友達や仲間について」は、「特になし/無回答」が30名、最後に、「その他」は、「特になし/無回答」が31名でした。

他の学校、学級については集計しておりませんが、共通する傾向として、質問3「学校の休みについて」と、質問6「学校の施設について」は、他の項目に比べて記述の割合が高かったのですが、反対に、「通知表について」、「学校の先生について」、「友達や仲間について」は、記述した割合は少なかったです。ここからは、主な意見を御紹介いたします。

A-1、2/4ページ目を御覧ください。「学校の休みについて」では、宿題や日程・日数に関することが多く、宿題については、「宿題が多すぎる」「少なくしてほしい」、日程・日数については、「夏休みを短くしてほしい。そして4時間授業にしてほしい」というものがありました。

3/4ページ目、「学校の施設について」では、「全然問題なしだと思うけど」という意見がある一方で、プール、トイレ、エアコンといった施設への要望、

中には、「雨漏りを直してほしい」「とげが刺さったことがあるのできれいな椅子に」といった、すぐにでも対応したいような切実な声もありました。

中学校3年生の声としてA-6を御覧ください。

2/4ページ目、質問3「学校の休みについて」は、小学校と同様、宿題や日程・日数に関する記述が見られました。

質問5「定期試験について」は、日程・日数に関して、「9教科のテストが多い」や、「現状は年4回の定期テストを年3回にしてほしい」といった意見のように、テストの負担軽減を求める記述がありました。

裏面、4/4ページ、質問9「学校の施設について」では、小学校に比べて、体育館や特別教室におけるエアコンの要望が多く見られました。背景には、教科担任制により特別教室での授業が多いことや、部活動による利用が多いことからの声であると考えられます。説明は以上です。

(質疑)

吉田委員…結果を見て、事務局として学期制の検討に関係があると思う意見はありましたか。

指導・相談担当課長…直接的なものは見受けられないと思います。全体的には少数意見になりますが、夏休みの長さや、施設についてなど、2学期制でも3学期制でも、付帯的にこういった視点も考えていかなければいけないということをお子たちの声から感じました。

萩原委員…回答の数は少なかったかもしれませんが、とても貴重な意見だと思います。回答に、1日の授業が6時間は長いという意見があります。例えば、休日を減らして、毎日5時間にすることは可能なのでしょうか。

指導・相談担当課長…全体的には、国が定める授業時数の標準時数が関係してきます。これ以外にも、各学校の学校行事等を考慮していくと、現状、特に来年度からは、増えることはあっても減らすことは難しいと捉えています。

(その他質疑・意見等なし)

栢沼教育長…質疑も尽きたようですので、協議に移ります。

今回は、特に資料A「児童生徒の声」を御覧いただいたの感想や御意見をいただきたいと考えております。

和田委員…小学生の回答を見ると、「先生について」や、「友達や仲間について」といったことになると、無回答が増える印象があります。学校現場の子供たちの人間関係の様子が反映されているように思います。ストレートに人間同士の関係性を表現しにくい感じを受けました。不登校の子供たちにアンケートを取る際に、学

校サイドからアンケート用紙を配ると、フリースクール側で把握している答えと違ってきます。今後、アンケートを行う際には、配慮ができるといいと思いました。

吉田委員…休みのことなど、意見はありますが、自由記述にいくつか意見があったからといって変える要望が全体に多いとは言えないと思います。子供たちにこういった意見があるということを楽しく読ませていただきました。先生たちは随分頑張っているということも感じました。学期制についてという視点では、子供たちに、それに関わる不満はないように思います。子供たちから意見があれば、検討を要すると思いましたが、特に意見はなく、これまで議論になってきたように、過去の3学期制がよかったと思うのは大人だけで、子供自身は、今の学期制で特に不満を感じておらず、そういった意見がないということが感想です。

森本委員…学期制とはあまり関係はないかもしれませんが、実際の児童生徒の意見を聞くと、友達や仲間について、楽しいと思っている子もいれば、仲間はずれや、いじめをしている人たちがいるといったことを感じている子もいるのだなということを感じました。先生方にフィードバックはされるのでしょうか。

指導・相談担当課長…本アンケートは無記名で、「何年後かの皆さんや未来の小中学生のために」ということを共通で説明したうえでの実施でしたが、アンケート結果を見ると、長期的な視点というよりは、短期的な、今なんとかしてほしいといった意見が多くありました。結果の扱いには十分に配慮していただくということで、該当校長には、今後の学校運営に繋げていただくために伝えていく予定です。

萩原委員…学校行事について、創意工夫で今以上に楽しい行事を作ることでもできそうだと感じる回答もあり、よいアンケートになったと思います。

栢沼教育長…全体的には少数意見が述べられているとのことですが、子供たちの目からしっかり捉えて、正直に書いてあるように思います。学期制との関係でみると、夏休みを減らして春休みや冬休みを延ばしてほしいといった意見があります。そういったことは、今後、受け止めていく部分だと思います。また、通知表については、少数ですが、小学校では、3回欲しいといった意見や、中学校では、教科コメントが欲しいといった意見があり、学期制と直接は関係ありませんが、関連のある通知表についても意見が出ていたということで、今後参考にできる点であると思いました。

(その他質疑・意見等なし)

指導・相談担当課長…次第の項目2「今後の予定」です。はじめに(1)教育委員会8月定例会についてです。8月定例会では、教育委員の皆様、2学期制を継続するか、3学期制に戻すかということを決めていただくこととなります。また、その際、理由や、推進するための御意見等をいただく場になると考えております。

参考までに、4月教育委員会定例会で配布いたしました資料の再掲となりますが、当日配布資料の別添6を添えております。この資料につきましては、2学期制を継続する場合、3学期制に戻す場合の、懇談会で話し合われたタイムテーブルになりますので、参考にさせていただきたいと思っております。

次に(2)その後の報告先です。①から③までございますが、市議会への報告、学校、教職員への報告、保護者及び学校運営協議会委員、学校評議委員等への報告を予定しております。以上です。

(質疑・意見等なし)

(8) 協議事項 (2) 令和2年度使用教科用図書採択について (教育指導課)
教育指導課長…それでは、御説明申し上げます。

今年度は、令和2年度から使用する小学校の教科用図書の採択年度となっております。次年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、文科省による教科書検定で合格した教科用図書の中から、小田原市の児童に最もふさわしい教科書を、教育委員の皆様には、採択権者として採択していただきます。

本日の定例会及び7月30日の臨時会においては、採択の前段階として、各種目のうち、検定に合格したものが4社以上ある場合について、種目ごとに御協議いただきます。本日は、国語、算数、生活、道徳の4種目について、30日は書写、理科、保健、英語の4種目について御協議いただきます。この2回で、候補の教科書を2から3社に絞っていただき、最終的には、8月2日と6日の臨時会で、採択いただくこととなります。

協議にあたって、教育委員の皆様には、事前に神奈川県教育委員会が作成した「令和2年度使用小学校教科用図書選定に係る調査研究資料」と、小田原市教科用図書採択検討部会が作成した「令和2年度使用 小学校教科用図書 調査研究報告」をお送りしておりますが、これらの資料に加え、皆様が独自に調査研究いただいたものをもとに、御協議いただくこととなります。

また、令和2年度から使用する中学校教科用図書も、今年度が採択年度となりますが、新たな教科書の発行がありませんでしたので、4年間の使用実績を踏まえ、8月6日の臨時会で、採択いただくこととなります。

なお、7月11日に小田原市教科用図書採択検討部会を開催しており、その際に出された部会員の皆様からの意見を、本日、教育委員の皆様には参考資料として配付させていただきましたので、よろしく願いいたします。

説明は以上です。

(質疑・意見等なし)

栢沼教育長…令和2年度使用教科用図書のうち、まずは、小学校の教科用図書の採択について、協議に入る前に、本日の協議の流れを確認します。まず、本日は、検定に合格したものが4社以上ある種目のうち、国語、算数、生活、道徳の4種目について協議をし、候補となる教科書を2から3社に絞っていきます。各委員からは、事務局から送付されている資料のほか、独自の調査、研究を基に意見を伺います。出尽くしたところで、一人2回から3回の挙手による多数決を行い、過半数のものがあれば、それを候補とします。1回の多数決で2から3社に決まらない場合は、挙手の回数を減らしたうえで多数決を取り、過半数のものを候補とします。候補が2から3社になるまで繰り返します。このような方法で進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

栢沼教育長…それでは、国語から協議を行います。国語は4社が発行しておりますので、本日の協議で候補を2社に絞ります。まず、委員の皆様から御意見を伺います。順番に和田委員からお願いします。

和田委員…各社の教科書を読ませていただきましたが、特に小田原市の場合、学校訪問してみると、学校図書館が充実していると感じます。ここ数年の図書室のあり方というのは、おそらく、司書を直接雇用しているからだと思います。各社ともに図書館へのつなぎということはやっていましたが、そういったことに興味を持ちました。東京書籍では、情報をどのように活用していくかということがあり、今の時代、生活の中での割合が大きくなると思います。そういうことを幼いうちから身につけていくと、情報リテラシーといった力につながっていくと感じました。また、5年生の教材で、手塚治虫や、宮沢賢治などの扱い方が、単なるその人の作品だけを紹介するだけでなく、もう少し突っ込んだ内容になっていました。子供たちにとっては、作者や作品に対して興味をそそるのではないかと思います。よい作りだと思います。

また、光村図書では、学年の始めに必ず詩があり、声に出して読むと言うことが毎学年繰り返して導入に登場していました。新しい学年で、詩を声に出して読むという繰り返しがよかったと思います。巻末に、「言葉の宝箱」というものがあり、会社によっては、そういったものが整理されておりましたが、整理の仕方が、捉えやすかったです。同じ気持ちを表すということでも、この場面では、このような言い方もあるというような、広がりを感じられました。また、「ランドセルは海をこえて」という教材では、日本で使われているランドセルがアフガニスタンで活用されているということが紹介されていて、単なる物語ではなく、今の時代を具体的に表していると思いました。教育出版であれ

ば、ディベートやパンフレット作りといったもので、具体的に話す、書くといったことが捉えられていてよかったと思います。

吉田委員…東京書籍の、特に1年生の最初のところの国語への導入が、とても楽しく勉強できそうだと思います。手を叩いて、文字を言葉にしていくときにリズムをとるようなことができたり、身体を使って理解していくような部分がありました。1年生の教科書では特に色の使い方が分かりやすく、文字と言葉を繋げていく、音声言語を繋げていくというところを、色を使って表現しており、視覚と一緒に理解する、動作と一緒に理解するということが、導入として、勉強が楽しく始められそうであると思いましたし、全体的にそういった印象を持ちました。

また、光村図書では、読書に導入していくということを考えると、色々な豊かな教材を使っており、心を育てたり、考えたり、感じたりすることができる教材が多く使われていると思いました。読書の楽しみを感じたり、読書をする習慣につなげていくというような国語の意味を感じることができ、学年に応じて、読んでいくと、読書が好きになるのではないかという印象を持ちました。国語の教科書として、すごく欲しい点だと思いますので、その点は、光村図書は素晴らしいテキストだと思います。

森本委員…子供たちが面白いと感じ、主体的に学べるように、また、学びたいと思えるような、魅力的な教材が大切ということで、身近で魅力的な話題や題材を扱っているものがないのではないかと思います、そういった点に着目しました。光村図書は、子供の学びたいという思いを支える教材、題材が選ばれていると感じました。子供たちが、自分のこととして考えられるような、身近な話題、題材を多く設定しているのが印象に残りました。また、読書ということに対して、光村図書では、各学年に「本は友だち」という単元を設定して、楽しみながら読書の世界を広げていけるように配慮されている点にも好感が持てました。教科書を比べてみて、表紙に動物や植物、そして子供たちがきれいに描かれていて、表紙を見て、楽しい学びの世界へ誘われるような印象を持ちました。東京書籍は、各学年に文学作品の作者、話題の人物などの読書の体験文が紹介されていて、子供たちも興味深く、読書ができるのではないかと思います、工夫されているなど感じました。

萩原委員…国語の教科書は、良質な読み物がたくさん載っているものがないと思います、その視点で調べたところ、光村図書が良かったです。6年生で宮沢賢治、谷川俊太郎、立松和平、5年生では、古典芸能や狂言、また、3年生では「ちいちゃんのかげおくり」や金子みすゞの作品が扱われていて、児童が始めて触れたときに、想像力や優しい心が育っていくのではないかと思う作品が多いのがよいと思いました。また、教育出版の内容もよく、プログラミング的思考や生命の尊重、心の発達、地域を愛する心などを積極的に採用されていました。ミニディベートやパネルディスカッションなど、話す、聞くといった活動についても、

多様な言語活動を進める授業ができるのではないかと考えています。3年生ではピクトグラムなどが採用されていて、オリンピック・パラリンピックが来年開催されることもあって、身近に感じられました。

栢沼教育長…国語の場合は、子供にとっては、教科書紙面がごちゃごちゃしておらず、分かりやすいものがよいというポイントがあると思います。特に若い教員にとっても楽しく学べるものが勧められると考えています。まず、光村図書ですが、苦手な子でも楽しく学べる配慮、工夫がふんだんに取り入れられており、5年生の40ページの「インタビューをしよう」というところでは、ふきだしを複数使い、会話文で全体的に示されています。また、対話の練習では、子供たちが楽しみながら対話スキルを身につけられるように編集されており、そういった点を含め、非常に主体的、対話的な深い学びへつながっていく教科書だと思います。教育出版については、先ほど、他の委員からもありましたが、プログラミング的思考を他教科と関連させる内容が配慮された教材設定がされていました。また、全学年で、着目ポイントをキャラクターが話して示しており、こういった点も子供たちが興味深く学べるよう工夫されていると感じました。学校図書については、特に、個人、他者、社会といったものとの関わりについて、多様性を前提とした問題解決能力を育てようとするような教科書の編集がされていたと思います。東京書籍では、扱われている文学作品の作者、話題の人物などの読書体験が、各学年にコラム形式で紹介されており、興味深く読める教科書であると思いました。

(その他意見等なし)

栢沼教育長…それでは、国語について皆さんからの御意見を伺いましたので、1回目は候補となる教科書をお1人2社選び、挙手をしていただきます。

(1社ずつ、挙手による多数決)

栢沼教育長…国語については、「東京書籍」「光村図書」の2社を候補として決定します。

栢沼教育長…次に、算数の協議を行います。算数は、6社が発行しておりますので、本日の協議で候補を2から3社に絞ります。委員の皆様から御意見を伺います。

萩原委員…私がよいと思った教科書は、学校図書です。3年生以上でつまずきやすい子供に対して、とても丁寧な取扱いがされていました。社会科や国語、理科などの他教科との連携など、実用性の高いものになっていると思いました。各単元でできるようになった学びを生かすなど、習熟度にあわせた設問が用意されているところもよいと思いました。東京書籍の教科書では、1年生の最初の導入

で、ブロックを使い、A4版の教科書を開いた上に実際にブロックを置いたり、直接書き込んだりでき、使いやすいと思います。単元末には、「いかしてみよう」、巻末には「おもしろもんだいにチャレンジ」などを設けており、学びを深めていくような活用ができると思います。教育出版では、全学年で共通して「学びの手引き」というものがあり、「友達のノートを見てみよう」というタイトルで、ノートの取り方のよいところを紹介したり、気づきの部分がふきだしで書かれていたりして、参考になると思いました。巻頭で問題を見つけて、解決までのプロセスを、「はてな」「なるほど」「だったら」などのふきだしで示しており、子供が興味を持ち、楽しんで算数が学べると感じました。

森本委員…算数は、苦手と得意になる子供の差が大きくなる科目だと思いますので、まず、1年生の導入部分の入り方に注目しました。東京書籍では、幼児期に培った数や量への興味や感覚を引き出すページがあり、入学直後の子供たちが安心して算数の学習に入っていくことができるように工夫されていると思いました。また、教科書に書き込めるような、オールインワン式の教科書になっているのも印象に残りました。絵や写真、図なども、子供たちに見やすいような紙面になるように配慮しているように感じました。教育出版も1年生のスタートカリキュラムを設けており、また、啓林館の「わくわく算数」でも1年生の子供たちが安心して学校生活を送れるように、スタートカリキュラムに対応して、入学直後の単元を3段階に分けていることが印象に残りました。東京書籍では、全学年で単元プログラムを設定し、対話をとおして日常の事象や生活経験を話題として、学習意欲を高める方向性があり、よい点であると思いました。教育出版では、算数を使って日常の問題を解決したり、学習したことを相互的に活用する問題の取組などがあり、算数の楽しさや魅力を分かってほしいということで、子供たちが興味を持って探求的に取り組める教材を用意していると思いました。例えば、雷の音の題材や、算数でスポーツをしてみるといった題材があり、工夫されているという印象を受けました。

吉田委員…比べても迷うようでしたが、特に東京書籍の、1年生のA4版の教材は、直接ブロックを置いて、書いたり、試したり、遊びを算数に導入するというようなことで、1年生で楽しく移行できるのではないかと思います。また、単元のまとめがしっかりしていました。分数などは分からなくなりそうなところですが、これまでに学習した分数を振り返ろうということで、詳しくもう一度振り返るページがあったり、「つないでいこう算数の目」というところで、単元のまとめをし、「おぼえているかな」ということで、畳み掛けるようにして復習をしているような構造で、苦手な子も、繰り返しやることで、分かっていくことができるのではないかと思います。学校図書では、「深めよう」というところで、具体的に、算数を使って日常生活のものを調べたり知ったりしていくというようなところが、算数を学んでいるうちに、ただ、教科書を勉強しているだけになってしまいがちなのが、生活に落とし込んで理解できたり、絵もあ

るので、分かりやすく、算数を実生活に役立つ勉強として理解していけるような工夫があると思いました。掛け算や面積など、とても丁寧に考え方が分かるような説明がされていて、積み上げていくことで、少しずつ分かっていって、整理できる構造になっていて素晴らしいと思いました。啓林館では、練習問題が充実していると思いました。繰り返しは重要ですので、毎時間の練習問題や、巻末の練習問題、また、習熟度別に実際に使いやすく、練習問題が使えるようなかたちになっており、繰り返し必要な勉強ができるようになっていて、算数は置いていかれてしまう子がいるのではないかとということが心配ですので、そういったところが工夫されていると感じました。

和田委員…他の委員と違った視点で、個人的にも興味のある教科ですので、調べてみました。算数用語が急に増えるのは4年生で、その言葉をきちんと理解しているかということが、積み上げ式の教科の場合、その後の影響が大きいと思います。勉強が分からなくなってしまう、嫌いになってしまったというターニングポイントとなるのは4年生だと一般的に言われています。特に教科でいうと、算数は積み上げ式の教科なので、つまづいてしまうと先に進まないという特徴があります。そういう意味では、用語の理解に重点をおいているかという点があると思います。また、算数は、きちんと順番をおっていけば答えが出てくるので、約束学習というようにも言われます。計算の順番など、算数という学習をとおして、約束が成立していくというような教科の特徴があると思います。どこでこういった用語や約束が取り上げられていくかという時期はとても大切であると思います。大日本図書が他社と違うと思った点がありました。商の見当をつけるということが出てきますが、おおよその見当をつけるということは、概数の概念がどこで取り上げられているかということで、大日本図書だけ、商の見当をつけるということを扱う前に概数の概念の学習をしています。他には見られなかった配慮ではないかと思いました。何回も繰り返して、いかに習熟させていくかということが、約束ということになると思いますが、その点についても配慮されていると感じました。東京書籍では、割り算の商の見当をつけるというところで、「仮の商」という、他社にはない新しい用語が出てきます。また、「たしかめよう」という計算する部分でも、「検算」という言葉が出てきます。小数の計算も同じ部分で取り扱っていて、少し詰めすぎではないかという印象を持ちました。学校図書では、10の束、100の束というように、束という言葉で位を捉えることで説明が一貫しています。そういった捉え方で繰り返し説明されていると、理解しやすいのではないかと思いました。また、筆算での計算の仕方が解説された後で「確かめたいな」というものが、練習問題の前に必ず用意されています。これも他社にはない特徴だと思いました。教育出版では、割り算の決まりの説明が丁寧であったという感想を持ちました。

栢沼教育長…算数は、苦手な子供が嫌いにならない教科書の作りになっているか、導入の扱いが子供たちの意欲を引き立てる工夫、興味、関心を持てるような工夫がされ

ているかという点が、子供にとっても教員にとっても重要になってくると思います。まず、学校図書では、深めたいというつぶやきが、深めようということにつながって、身の回りで算数が使える課題を多く扱っており、日常生活に向けているということが、視点がよいと思いました。特に掛け算など、各学年が系統性で追いかけているという点が優れていると思います。1年生で習ったことが2年生で、2年生で習ったことが3年生でというように、掛け算にしても、各学年の発達段階に応じて系統性を追いかけて編集されているということが素晴らしい点だと思います。割り算についても、見える化がされていて、子供にとって分かりやすく、算数が好きになりそうな教科書であると感じました。大日本図書では、「ふくろう先生のなるほど算数教室」というものが、非常に子供たちの算数への興味、関心を高めたり、算数が日常生活で生かされているということを実感できるよう工夫されていると思いました。また、東京書籍では、特に算数の苦手な児童への工夫が配慮されていました。2年生以降の「たしかめよう」というところでは、問題に対して、解決の仕方が想起できる手引きが掲載されていたり、学習したページに戻って学習を見直すことができたりするように構成されています。そういった点は、苦手な子にとっては、学習しやすい作りになっていると思います。また、1番よかったと思う点は、1年生の最初の単元で、ブロックが置けるようにA4版になっていて、直接教科書に書き込んだり、練習したりできるように配慮されていて、子供たちにとってみれば、分かりやすく、興味、関心を引き立てるような教科書であると思いました。

(その他意見等なし)

栢沼教育長…それでは、算数について、皆さんからの御意見を伺いましたので、1回目は候補となる教科書をお1人3社選び、挙手をしていただきます。

(1社ずつ、挙手による多数決)

栢沼教育長…算数については、「東京書籍」「学校図書」「教育出版」の3社を候補として決定します。

栢沼教育長…次に、生活の協議を行います。生活は、8社が発行しておりますので、本日の協議で候補を2から3社に絞ります。委員の皆様から御意見を伺います。

和田委員…まず、どこを選んだらよいか悩みました。他社と違うところという点では、大日本図書の教科書は、表紙に凸凹があり、立体的でした。五感を通して感じるということが他にはない特徴であると思いました。今の時代は、自然災害が頻発していて、自然災害について早い時期からきちんと捉えるということについては、大日本図書はやられていると思いました。上巻に「食べ物を作る言葉が

まとめられていました。御飯は炊く、卵は茹でる、おでんは煮るというような表現は、多様性があるって面白いと思いました。普段、何気なく使っている言葉ですが、低学年の子供だと分からないこともあります。教科書で扱っているのは面白いと思いました。今の時代は、多様性を共有できるかということがあり、どの教科書でも、障がいを持っている方や外国につながる方などが頻繁に取り上げられているというのが特徴であると思いました。学校図書では、単元が「どきどき」「いきいき」「ふむふむ」「にこにこ」という4段階に分かれていて、そのページが単元のどの段階に位置するかということが一目で分かるような工夫がされていました。巻末の「学び方図かん」に、学習活動のポイントやアドバイスが載せてあり、できたところには丸をつけるような作りは面白く、子供は興味を持って行えるのではないかと思います。キャラクターがつぶやいていて、そのつぶやきが、そういった視点で物事を考えることも面白いというヒントになっていると感じました。ページの右下に、教員に向けて、子供の気づきに対する確認があり、そういった点も評価できると感じました。光村図書では、ページごとに「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」と3段階が示されていて、学ぶ視点、主題がはっきりしてよいと感じました。ジャンプのところ、気づいたこと、したいことを書いて貼るシールがあり、子供たちにとっては、楽しい作業で、興味を持つのではないかと思います。「どうすれば」というコーナーが随所に設けられていて、思考力を伸ばすことができると感じました。啓林館では、巻末の学習図鑑で、より詳しい学習の仕方が示されていて、面白いと感じました。学校を訪問して思ったことが、特に低学年の教科書が大きくなっているということです。子供たちの交通事故が取り上げられることが多いですが、これは、子供たちの可視域、見える範囲が大人よりも狭いからです。机の大きさは変わりませんが、教科書や文具が大きくなっているということが、学校を訪問して感じたことです。可視域ということ考えると、必ずしも大きければよいということではないのではないかと疑問を持ちました。

吉田委員…3社についてお話しします。東京書籍は、全体的に一つ一つの扱いが丁寧にされていて、学びを深めるコーナーもよいと感じました。導入についても、小1プログラムに対応した内容があり、和田委員とは反対の意見になりますが、大きくて見やすく、軽いですし、よいと感じました。巻末の「ポケットずかん」や「かつどう べんりてちょう」といった工夫も子供たちにとっては分かりやすく、よいのではないかと思います。2つ目は学校図書です。対話の場面を大事にされていて、また、見やすさといった点では、とてもすっきりしているといった印象を受けました。構成も見開きで構成されていて、全体的に統一感があり、安心して読んでいけると感じました。どの出版社も段階を踏んで単元を分かりやすく進めています。が、「どきどき」「いきいき」「ふむふむ」「にこにこ」はすごくよく分かると思いました。3つ目は教育出版で、さいころで資質能力を示して目当てが分かりやすくなっていたり、満足はしごで自己評価できるよ

うになっていたりしている点は、達成感や自分で目当てを見つけて向上できるよい工夫であると思います。また、絵本を取り扱っているところも、導入としては入りやすいと思いました。

森本委員…生活では、気づきをキーワードに見てみました。東京書籍では、気づきという点を、巻末の「ポケットずかん」を使って自分で調べる習慣を身につけたり、気づきの質を高める工夫をされているのがよいと思いました。気づきをとおして、自分のよさや可能性に気づいて意欲や自信を持って学んだり、生活を豊かにするという姿が具体的に示されているという点もよいと思いました。教育出版では、生活で育成する資質能力をさいころで分かりやすく示して、気づくという点と、自分でできる、考える、伝えるといった、生活の学習の目標が掴める工夫がされていました。小学校の生活に入るためのスタートカリキュラムに注目すると、学校図書では、スタートカリキュラムで、子供の不安を取り除いて期待感を持たせるようなイラストや短い文章で分かりやすく構成して配慮されていると思いました。学校図書では、子供の自己決定の場や対話の場面をととても大事にしていると感じました。例えば、自分の鉢で朝顔を育てる、自分で種を選んで自分で育てる、さらに友達と情報交換を行うということで、自己決定できる子供、他者との関わりで成長できる子供を育てるということ意識して構成されていると感じました。教育出版のスタートカリキュラムでは、吉田委員からもありましたが、幼児期に親しんだ絵本を使用していて、安心して楽しく学校生活に慣れさせようということ意識的に行っていて、また、気づきの象徴である木を題材にしていることがよいと思いました。

萩原委員…生活の教科書については、どちらの出版社も共通した内容で構成されておりました。1年生が入学して、学校探検から学校がどんなところかを知る。自然体験から、季節を感じ、植物を育てて、生き物の大切さを学ぶ。そして、身の回りで自分ができることを見つけて、それを習慣化していく。町探検をして、地域や社会への興味をつなげるといった流れになっていて、育成すべき資質能力を身につけるための教材としては、どれも素晴らしいと思いました。その中で、東京書籍では、各単元に「かつどう べんりてちょう」というページがあり、道具や片付け、気をつけること、公共交通機関の使い方などが、写真などを盛り込んで詳しく示してあり、見やすく分かりやすいです。また、写真やイラストに、外国籍の方や、車いすなどの障がいのある方などもあり、多様性をアピールしていると思いました。光村書籍では、入学直後の不安に配慮して、安心できる表現、言葉の選び方がよいと思いました。また、巻頭と巻末に工藤直子さんの詩があり、児童が安心できる生活の学びを保証していると感じました。全体的にユニバーサルデザインはどの出版社も用いていますが、表紙もそうですが、目に優しく、見ていて心が穏やかになると感じました。日本文教出版では、「ちえとわざのたからばこ」というものがあって、考える技や話し方、聞き方、箸の持ち方から、紐の結び方まで写真で載っていました。植物の観察で

は、種から花が咲くまでを、しかけ絵本のように折り曲げて、3段階で成長していく過程を見開きで見られる工夫があつて、興味を持たれると思いました。また、点字と手話の紹介がされていて、街の中のどんなところで使われているかということが写真で載っていました。自動販売機やポストなどに点字が使われているといった説明が丁寧にされていました。

栢沼教育長…若手の教員が増加しているという視点から、現場や教育委員会でも働き方改革ということを進めていかなければいけないということが課題としてあります。今回の教科書については、どの出版社も、教員に親切というか、教えやすいように工夫されている点を各社がアピールしているように感じ、好意的に思っています。特に若手教員への指導技術の伝承が難しくなってきたという指摘が、中教審でもされており、学校現場で、若手教員に使いやすいような指導サポートのある教科書が望ましいと思います。生活については、低学年が使用することから、写真やイラストを多用して、物事が順序立てて分かるような教科書が子供にとっても分かりやすいと思います。1年生の冒頭で、授業や給食、学校生活の紹介に多くのページを使っている点もよいと思います。また、特に支援を必要とする子供に配慮して、グループワークで物事を時系列で記載してあったり、時計のイラストを入れたりといった工夫も各社見られました。光村図書については、単元導入時の発問や、活動時の言葉かけといったことが示されていて、若手の教員には、授業で使いやすく、また分かりやすい教科書と言えると思いました。東京書籍については、ふきだしやイラストで、生活の見方、考え方を生かした学びの姿、学びのプロセスを具体化して示しており、こういった点も若手教員にとってはよい教科書であると思います。学校図書については、子供の自己決定の場、また、対話の場面を大切にしていることが特徴的な教科書であると思います。日本文教出版では、数ページを山折にすることで、植物の成長過程が一覧できる立体の仕掛けがあることも特徴的な教科書であると思います。

(その他意見等なし)

栢沼教育長…それでは、生活について、皆さんからの御意見を伺いましたので、1回目は候補となる教科書をお1人3社選び、挙手をしていただきます。

(1社ずつ、挙手による多数決)

栢沼教育長…生活については、「東京書籍」「学校図書」「光村図書」の3社を候補として決定します。

栢沼教育長…次に、道徳の協議を行います。道徳は、8社が発行しておりますので、本日の協議で候補を2から3社に絞ります。委員の皆様から御意見を伺います。

萩原委員…道徳の教科書を選ぶにあたって、大切にしなければいけないと思うことは、一方的な価値観を伝えるのではなく、多面的な意見を持てることです。この観点から3社を選びました。まず、教育出版です。30時間以上の教材があり、補助教材として活用ができ、状況に応じた内容を單元の中で選べると思います。また、小田原市にちなんだ教材として、二宮金次郎の功績が紹介されていて、働くことの意義などについて考えるきっかけになりそうです。「やってみよう」というコラムは、モラルスキルトレーニングと言われるものですが、ロールプレイをとおして、立場を変えると視点も変わるということで採用されていました。また、ユニバーサルデザインになっていて、文字が見やすかったです。発達段階に応じての配慮が、こういったところからもうかがえました。2社目は学研教育みらいです。赤ちゃんの実物大の写真を載せていたり、挿絵にとってもインパクトがあって、学習に参加しづらい児童も、興味を持って取り組めると思います。また、各ページに主題を載せていないという配慮がされています。これは、特定の価値を誘導しない配慮につながると思いました。異なる複数の意見を掲載しており、多面的、多角的に考える工夫がされていて、子供の実態に応じて授業の展開ができるのではないかと思います。3社目は光村図書です。道徳の授業で取り組んでほしい、いじめについての教材が豊富です。学年の実態に応じて6年間学べるようになってるのが評価できる点だと思います。互いを認める、人や社会に目を向ける、自分を伸ばすといった3つの柱を作り、その内容を6年間継続して学べるようになっていきます。全体的に子供が読んで共感できる、安心するような言葉が使われていました。価値を押し付けず、正解に方向付けないということも、自分の価値を認める、それを表現できるという工夫がされていると思ひ、とても読んでいて心地よいと感じましたので、この3社を選びました。

森本委員…数ある道徳の教科書から3社に注目しました。まず、東京書籍です。道徳で一番重要になる課題は、いじめであると思ひます。いじめのない世界へということで、全学年で掲載しており、3つの要素からなるユニット形式になっていて、扉のページ、直接的教材、間接的教材で、いじめをしない、いじめを許さない心を育てる教材ということを設定しており、工夫されていると思ひました。複数時間にわたって、深く、じっくりいじめに対して考えることができると思ひました。光村書籍では、いじめの問題もそうですが、情報モラル、環境、国際理解、福祉共生という問題も取り扱っていて、特に3年生から6年生に関しては、インターネットの問題、トラブルが増えておりますが、そういったインターネットとの付き合い方に対して目を向けていて、現代的な課題を取り扱っている印象を受けました。基本的に1ページに1枚は挿絵が載っていて、内容の理解に困難さのある子供たちの手助けになると思ひますし、写真も多用されて

おりますので、実際の状況や様子が分かりやすいように工夫されていると思いました。教育出版では、重点のテーマとして、いじめをしない、許さない、自分や周りの命を大切にする、情報モラルを守るということを挙げて構成されていて、共感が持てました。日常生活で出会う多種多様な事例を教材化していて、子供たちが道徳的な価値を自分との関わりで考え、話し合うことができるように工夫されていると思いました。

吉田委員…3社選びましたが、まず、教育出版です。学校生活や他の教科との関係として考えていける構成になっているという点が、実際に子供たちが体験したり学んだりしたことと結びつけて考えることができるのではないかと思います。よいと思いました。偉人について扱っていることも分かりやすい示し方だと思います。役割演技などで、自分以外の人の立場を疑似体験的に考えたり、分かりやすく経験できるようになっていたと思います。光村図書では、これが正解という価値の押し付けがなく、色々な視点で考えられるような工夫がありました。また、本を開いてみると、写真や挿絵があり、分かりやすく、学びやすいテキストという印象を受けました。子供たちも学びやすく、拒否感がなくなるような作りになっていると思います。3社目は学研教育みらいです。写真や挿絵がとてもよく、子供たちが興味を持つような印象です。子供への問いかけについても、子供が自分で考えたり、振り返ったりできるようになっていて、価値の押し付けがなく、教員が学級の実態にあわせて進めていけるような構成になっているというのが素晴らしいと思いました。

和田委員…まず、教育出版です。補充教材があり、そこから場合によっては教員が選ぶことができるという柔軟性があると思いました。道徳が目指すのは、知識として知っているだけではだめで、それを生活につなげていかなければ意味がないと思っていて、そういった意味では、教育出版では、「やってみよう」というところで、生活につなげる意図を感じました。ここは大事にしていかなければいけない要素であると思います。高学年では、人物の生き方に焦点を当てて、取り組むような工夫がありました。偉人の扱いも多く、人としてどう生きるかということ学べると思いました。次に、光村図書です。全体に言えることですが、ノートがありません。1時間の中でノートに書いて残していくという作業は、少し負担が大きいと思います。また、先ほども言いましたが、大きい教科書というのは、可視域が問題だと、視点を移すということは、負担になるようです。光村図書の教科書は一番サイズが小さいですが、小さいから不足があるかということで見ましたが、不足感はなく、このサイズでよいと感じました。3年生の暮らしの道具のところでは、小田原ちょうちんが取り上げられていました。市内の小学生は小田原ちょうちんを作るということもあるので、とても興味を持てると思うので、よいと思いました。表紙絵は、他社と比べると、優しく、柔らかいという印象を受けました。道徳は柔らかい人間性、穏やかさというものを表現するのも大事ではないかと思います。最後に、2年

前に道徳が教科になった際に、教科書採択を行いました。教員にしてみれば、教科書の扱いに戸惑いがあったのではないかと思います。教育長からもあったように、若い教員の負担等を考えると、継続性という意味で、前回使われた出版社の教科書がよいのではないかと思います。

栢沼教育長…道徳に関しては、他の委員からもありましたが、価値を押し付けない教科書、教員が選択可能である教科書という点が大事であると思います。また、発問文、問いかけが掲載されていないほうがよく、子供の状況によって「なぜ」「どう思うか」「どうして」といった、教員独自で発問が可能な構成になっているほうがよいです。また、ノートを書くだけで、子供にとってみれば、作業量が増えてしまうこともあるので、ノートということに縛られないということもあります。多面的、多角的に、様々な人物、視点から考えることができる、多様なタイプがあって選択できるというものがよいと考えます。まず、学研教育みらいでは、題材の冒頭に主題名がなく、特定の価値観を子供に押し付けないという配慮がされています。また、学級の実態や教員の実力に応じて学習の展開が多様にできるように工夫されている教科書であると思います。光村図書では、資料の中で、明らかな価値の正解の方向付けがなく、児童が自分たちで価値を認めることができるように、表現、構成の工夫がされています。また、森本委員からもありましたが、1ページに1枚は挿絵があり、内容理解に困難のある子供の手助けになりやすい教科書であると思います。写真も多く、子供にとって分かりやすい教科書になっています。光文書院については、年間道徳は35時間扱いですが、40の題材が掲載されています。教員が選択でき、学校として、道徳教育の重点化も題材の中から選択できる教科書であると思います。教育出版も同様に30時間以上の教材が補助教材としてあります。自作資料などを使って学習展開できるような、教員が選択可能であるという工夫がされています。また、教材の配列が、学年の行事や、他教科の学習内容の時期との関連を意識して編集されているのが特徴であると思います。東京書籍については、いじめに関してしっかり取り扱っていて、低学年では間接教材、高学年では直接教材、これをユニット型として取り入れ、複数時間にわたって、深くじっくりと考える学習ができる工夫がされていました。廣あかつきに関しては、いのちの教育、生命の尊重を重視した教科書で、全学年で系統的に配置されています。いのちの教育の特設のページがあり、また、2時間続きの扱いで、しっかりといのちについて学べるように構成されています。若い教員から、ベテランの教員まで、使いやすさを追求した教科書であると思います。日本文教出版では、他社にない特徴として、ジェンダーやLGBTについての記載があり、共に生きるということに重点を置いた教科書であるという印象を受けました。

(その他意見等なし)

栢沼教育長…それでは、道徳について、皆さんからの御意見を伺いましたので、1回目は候補となる教科書をお1人3社選び、挙手をしていただきます。

(1社ずつ、挙手による多数決)

栢沼教育長…道徳については、「教育出版」「光村図書」「学研教育みらい」の3社を候補として決定します。

栢沼教育長…それでは、本日予定していた教科書採択にかかる協議は終了しますが、本日の協議で候補となった教科書について確認します。

国語…東京書籍、光村図書

算数…東京書籍、学校図書、教育出版

生活…東京書籍、学校図書、光村図書

道徳…教育出版、光村図書、学研教育みらい

以上でよろしいでしょうか。

(異議なし)

8 教育長閉会宣言

令和元年8月27日

教 育 長

署名委員（和田委員）

署名委員（萩原委員）